

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別：幼保連携型認定こども園
事業所名：信学会東堀保育園

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】内容評価項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点（実施している場合は■）		
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	■ 1	保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	[取り組み状況] 法人の理念である礼節・忍耐・誠実を基本に、魅力あふれ絆が深まる「子ども園」を目標に、よく考え、豊かに行動できる子どもを育てたいという願いを立案し、保育実践を行っている。なお、保育課程等は本部担当部署にて策定、見直しがなされている。 [検討課題] 基本的な方針は家庭や地域の実態に促したものとする、全体的な計画であることが望まれる。そして、全職員が計画策定に関わり共有し、共通認識を持つことでクラスごとの計画となり、日々の保育実践の振り返りを経て、より良いものになると理解したい。
					■ 2	保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	
					■ 3	保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	
					■ 4	保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。	
					■ 5	保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	■ 6	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。	[取り組み状況] 新築2年の明るい室内環境で、開放感があり、玄関にはデンと呼ばれる遊びのコーナーがあり、自由に創作ができる素材も用意されている。 また、広い廊下には多くの絵本が揃い、生き物コーナーには金魚・かたつむり・蚕・イモリなどを飼育し、子ども達が常に関心を持ち目を輝かせている姿も見られる。トイレは未満児、年少・年中・年長児ともに和洋式トイレの設置など、細かな配慮が見られる。 [検討課題] 遊び、学習、食事、昼寝の時間などの際、環境設定については更なる取組みと、子どもの探究心などを更にかきたてるような工夫も期待したいところである。
■ 7	保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。						
■ 8	家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。						
■ 9	内装等には、木材を利用している。						
□ 10	一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。						
■ 11	食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。						
■ 12	手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。						
② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	■ 13	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	[取り組み状況] 一人ひとりの子どもを知る為にラーニングストーリーを取り入れ、子どもが持っている力や気持ちを保護者にも伝える取組みが始まっている。 [検討課題] 一人ひとりの子どもの姿を捉え、共感しながら信頼関係を作り、園児との関わりを振り返り、自信や自己肯定感が更に育つような取組みとする、PDCAの日常的なサイクル化が必要と思われる。それにより、ラーニングストーリーを通した保護者の理解も増し、成長の喜びを共に感じることもより進むと思われる。			
		■ 14	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。				
		■ 15	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。				
		■ 16	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。				
		□ 17	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。				
		□ 18	せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。				

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 <input type="checkbox"/> 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>年令毎の保育計画の中で、食事・睡眠・着脱・排泄・清潔について明記している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>基本的な生活習慣を身につける大切さについて、子どもが理解できる様な体系づくりの作成が望まれる。そして、0・1才児は家庭との連携で、2・3才はそれが自立、4・5才児は習慣化できるような見通しの持てる基本的な生活習慣のリスト化を家庭と共有し、保護者も目的・効果が理解可能となる仕組み作りも期待したいところである。</p>
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 <input type="checkbox"/> 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 <input checked="" type="checkbox"/> 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>遊びの広がりができるように身近な小植物・動物の栽培・飼育、地域の産業蚕からまゆまで育てたり、味噌製造会社の見学から味噌作りを学ぶなど、わくわくする体験を多く取り入れている。</p> <p>なお、近隣に公園などが少なく、散歩を通した園外活動が少ない事の認識を持っている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>子どもの主体的な活動の基は健康な体づくりであり、地域のことをよく知り、地域資源の活用を更に期待したい。</p> <p>そして、年齢に応じた戸外活動・散歩などは、時間、距離を考慮した年間計画を作成するなどして、子どもの成長と環境の豊かさを把握することで、不足する環境や園内での新たな取り組みも視えてくると思われる。</p>
			⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。 <input type="checkbox"/> 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 <input type="checkbox"/> 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>一人ひとりの気持ちに寄り添いながら安心と安全な保育に心がけ、ダンボールを使った遊び、ペットボトルでのままごとなど、手作りの玩具を作って、子ども達も楽しんで遊ぶ姿が見られる。</p> <p>そして、毎日の連絡帳を通して保護者と子どもの成長を共有している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>一人ひとりの子どもの実態を把握し、適切な援助につなげる個人計画の作成は必要と思われる。</p> <p>また、一人ひとりが落ち着いて遊べるコーナー等の工夫も期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	
		⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。	[取り組み状況] 自分でやってみたいという気持ちを大事にしながら、家庭との連携をとり、毎日、園での様子を知らせている。 [検討課題] 子どもの実態を把握し適切な援助につなげる為、個別指導計画の作成は必要であろう。 また、遊びが豊かに展開されるような遊具や、素材を生かすような工夫、取り組みは更に必要と思われる。 なお、様々な大人との関わりについては、来園者だけでなく、戸外活動などを通じた取り組みで、多様な大人との接点の機会の増加が期待される。
				□	41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	
				■	42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。	
		■		43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。		
		■		44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。		
		□		45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。		
		⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	[取り組み状況] 3～5才まで各年令毎、月単元を決めて保育活動を行っている。 特に週案を大事にして園長・主任が日々の保育から子どもがどのように活動し、保育士の言葉がけは適切かなどの振り返りをしながら保育の質を高める取り組みを行っており、各園児の理解には効果が期待できる。 また、ほぼ毎日、ホームページで子どもの活動も情報発信している。 [検討課題] 子どもの発達をふまえ、次の活動への期待や意欲が持て、見通しを持った計画の作成が期待される。
				■	48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				■	49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	
				□	50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	
		⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■	51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	[取り組み状況] 特別な配慮を必要とする子どもには市の総合相談センターが窓口となり、養育コーディネーターの巡回相談もある。 また、保育士の加配もあり、医療的対応が必要な子どもには、家庭の付き添い医師からの援助を受けている。 [検討課題] 個別の支援計画・指導計画を立て、一人ひとりに対するきめ細かな支援を職員全員で協力し、一貫した支援となる事が期待される。 なお、様々な障害に対しての職員研修の充実が必要であろう。
				□	52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	
				□	53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	
				■	54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	
				■	55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	
				■	56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	
				□	57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	
				□	58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 <input type="checkbox"/> 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 <input type="checkbox"/> 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 <input type="checkbox"/> 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>16時～19時半までの長時間保育の実施があり、0・1才児の部屋に集まったの保育で、異年齢交流保育が行われている。 17時半以降には、おやつ・お茶の提供がある。</p> <p>[検討課題]</p> <p>1日の生活の流れからゆったりと過ごす環境を考えれば、未満児と以上児との交流時間の設定の検討は必要であろう。 延長保育児の為の作成だけでなく、職員間の正確な情報伝達の為、また、家庭との連携の為に延長保育日誌を作成して記録することが期待される。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりを配慮している。	b)	<input type="checkbox"/> 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 <input type="checkbox"/> 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input type="checkbox"/> 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 <input checked="" type="checkbox"/> 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>年長児は小学校訪問が年2回あり、小学校からは秋・冬就学担当者が保育園を訪問して情報交換をしている。 また、就学を考慮して、トイレは和式・洋式の設置である。</p> <p>[検討課題]</p> <p>年間計画の中に就学にむけての保護者との情報の共有化を明文化することも必要と思われる。 また、就学にあたり、子どもの育ちを支える保育要録については、職員間での共通理解を期待したい。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 <input type="checkbox"/> 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 <input type="checkbox"/> 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 <input type="checkbox"/> 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 <input type="checkbox"/> 77 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>年間の健康管理、保健計画の作成を行っている。 また、身体測定は未満児は毎月、以上児は年4回実施しており、0・1才児の午睡時には15分毎のプレスチェック表で把握している。</p> <p>[検討課題]</p> <p>SIDSなど全職員が研修し、理解の下での子どもの安全な生活への共通認識、取り組みが期待される。 また、体重測定は毎月実施して、一人ひとりの健康状態の把握は必要と思われる。 そして、保護者に対してもSIDSに関する知識や情報の提供、感染症の予防対策などの提供も必要であろう。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	■	79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	[取り組み状況] 年2回の健康診断・歯科検診の受診があり、年少組は歯科衛生士によるブラッシング指導も親子で受け、歯みがきの方法などを習得している。 検診結果は保護者に知らせ、治療を要する子どもの保護者には受診の勧告をしている。 [検討課題] 毎食後のブラッシングは大切であり、正しく磨けているか一人ひとりの歯磨き確認は必要と思われる。また、検診結果を受診の勧告だけでなく、保護者の理解を促し協力して治療につなげるようにすることも必要であろう。
	■			80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。		
	■	81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。				
		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	■	82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	[取り組み状況] アレルギーがあり、除去食の必要な子どもには医師からの指示書に従い、保護者と園長、主任保育士、栄養士が面談を行っている。 そして、該当する子どもにはアレルギー疾患生活管理指導と保育園における食事アレルギー対応面談表に記載し、除去食を提供し、誤配のないように配慮している。また、代替食の提供もある。 [検討課題] 職員全員がアレルギー疾患の研修、エピペンの使用法などの研修を行い、配慮すべき事項の理解を共有・連携し、協力していくことが重要と思われる。
	■			83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。		
	■			84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。		
	■			85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。		
	□			86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。		
		(4) 食事	b)	□	87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	[取り組み状況] 食育年間計画を下にした年令毎の保育計画には、食生活の習慣や食文化、食材とのふれ合いなど、様々な体験の機会を設けている。 もぐもぐ家族の時間では、降園時に保護者に行事食などの試食をする機会を設けて、園での食事を子どもと共有している。3才以上児はランチルームで給食を食べ、秋頃から異年令での組み合わせで食事する仕組みとなっている。 [検討課題] ランチルームでの食事は子どもにとって楽しみではあるが、箸の持ち方、姿勢、食する順番などの食事マナーはきめ細かな配慮が必要であり、目の届くクラスでの昼食とランチルームにおける大勢での食事など、組み合わせることも必要と思われる。 なお、以上児の食器はセラミック仕様であるが、食器の形、大きさなどの検討は必要であろう。
	■			88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。		
	□			89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。		
	■			90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。		
	□			91 食器の材質や形などに配慮している。		
			b)	■	92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	
	■			93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。		
	■			94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。		
	■			95 子どものお食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。		

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b)	<input type="checkbox"/> 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 <input type="checkbox"/> 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 <input checked="" type="checkbox"/> 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>園の畑にはジャガイモ、トマト、キュウリ、ナスなど、様々な野菜を栽培しており、収穫した野菜でカレーや豚汁作りの体験もある。</p> <p>年長児は地域の田んぼの先生から稲の育て方を学んだり、年中・年長児はヨモギを採りに行き草餅を作ってもらったりと、地域ならではの食材に触れる事ができ、食事を楽しむ機会も多い。</p> <p>給食の献立は毎回栄養士が説明しており、食べ物の関心も深まっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>長野県では県産品の消費拡大の施策も進められており、給食の材料の生産地などの説明や、子どもだけでなく保護者へも明示・説明するなど、両者の理解を深める取り組みも期待したい。</p>
2	子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<p>[取り組み状況]</p> <p>園だよりは月2回、クラスだよりは月1回配布して、子どもの様子や成長の姿を伝えている。併せて、園での子どもの生活はほぼ毎日画像にて、保育の内容をホームページで発信している。また、必要に応じてホワイトボードにも連絡事項を載せている。</p> <p>なお、連絡帳は3才以上児は使用せず、口頭での連絡、情報交換となっている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者の保育参加、一日保育士体験など、保育園での子どもの様子や成長を喜び共感しあえる、また、保護者がより安心できる取り組みは期待したいところである。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input checked="" type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	<p>[取り組み状況]</p> <p>保護者からの相談に応じる体制はあり、登園時・降園時は玄関、園庭で必ず声掛けをしている。</p> <p>[検討課題]</p> <p>保護者の生活・就業形態が異なることへの配慮と工夫として、保護者が安心して子育てができるように、相談についての記録簿の作成をはじめ、面接相談の体制やそのマニュアル等の充実・整備を進めることで、保護者への対応も統一されたものとなり、更に信頼関係を深めることにつながると思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点(実施している場合は■)	
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 <input type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 <input type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	<p>[取り組み状況] 毎日の朝の視診や子どもの表情などを注意深く観察し、園長からは日常時に職員に対して虐待についての講話がある。</p> <p>[検討課題] 虐待の早期発見・対応、発生予防などの理解を促す具体的取組みとマニュアルについて、全職員の研修は必要と思われる。 また、園内での具体的な虐待にはどのようなものがあるのかなど、職員の意識を更に深める新たな取組みも必要であろう。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	<p>[取り組み状況] 年に1回自己評価を行っている。 また、毎月順番に一人ひとりの職員の公開保育を行い、お互いの保育の実践を評価し合い、学び合い、保育の向上をめざしている。</p> <p>[検討課題] 職員間での研修や外部研修を多く設け、更なる高みを目指すには何かなど、改善点を話し合いながら、子どもとの実践を通して職員も成長し合える、保育の仕事は楽しいと思える職場作りの視点も必要と思われる。</p>